東金発 アマ無線局発信

市制60周年を記念

東金市の市制施行60周年を記念したアマチュア無線特別局（コールサイン8J1TGN）が6日、運営を始めた。クラブ局の枠を越え、福島県南相馬市からの避難者を含めて約30人が参加。来年3月末まで東金市を無線で全国にPRし始めた。

記念特別局の運営に集まったアマチュア無線家＝いずれも東金市日吉台4丁目

地元の魅力PRへ30人結集

東金市はアマチュア無線が盛んな地域で、災害発生時に備えての対策づくりなども進んでいる。記念局を作ろうと呼びかけ始めたのは、元教師の日暮文雄さん(63)。県内でも茂原市などで市制施行の記念局が運営された例があり、ぜひ、大好きなアマチュア無線で郷土の東金市を全国にPRしたいと考えた。

それに共鳴したのが、同市内でアマチュア無線をしている印刷業の河内勝美さん(51)や市議の相京邦彦さん(61)ら。同市内には東金アマチュア無線クラブや東金市役所アマチュア無線クラブなどがあるが、その枠を越えて多くのアマチュア無線家で運営しようと呼びかけた。昨年11月から6回の準備会を経て、参加者を募った。市内だけではなく、東金市近郊からもアマチュア局を運用したい人が集まった。その上で4月1日付で関東総合通信局から免許がおり、運営を始めた。市も交信証明書（QSLカード）の印刷費などを補助する。

6日は朝から約20人が同市日吉台4丁目に集まり、アンテナの設置から準備を始めた。無線歴40年、50年のベテランも多く、約1時間半で準備作業を終えた。全国と交信しやすい短波の7メガヘルツや18メガヘルツ、近隣と交信するための超短波145メガヘルツと極超短波433メガヘルツの無線機を設置、交信を始めた。短波では早速、北海道や九州とつながり、東金市を大いに宣伝した。

免許の期限は1年間あり、市内のイベントなどにも出むいて、無線局を開局、アマチュア無線の楽しさを広く市民に知ってもらう。

福島からの避難者、運営の要

記念特別局の運営の中心になっている1人が、東日本大震災後の2011年4月に福島県南相馬市から東金市にやってきた吉田真悟さん(63)だ。

吉田さんは特殊モーターのコイルを作る技術者。自宅は地震そのものでは被害は全く受けなかったが、東京電力福島第一原発の事故のため、避難をやむなくされた。一緒に住んでいた家族は現在、3カ所に分かれて住んでいる。

仕事は一人前になるには10年はかかるという特別な技術が必要だ。震災後、避難した福島市で絶望的になるのを救ってくれたのが、仕事への誇り。「私ら職人が頑張って、東北を復興したい」と、7世帯10人で、工場ごと東金市へと移ってきた。

仕事は忙しいが、夜は一人っきりになる。定年後の老後の人生設計もなにもかもが狂い、一人で悩み出すときりがない。それを救ってくれたのが40年来の趣味のアマチュア無線。東金市で友人もできた。

記念局の運営ではアンテナづくりなど先頭にたって準備した。「仲間と一緒にできる、アマチュア無線という趣味があり、ほんとうによかった」と話していた。（稲田博一）

記念特別局で、運営を手助けする吉田真悟さん（左から2人目）

技術者・吉田さん、先頭に立って準備